

平成29年度授業改善推進プラン

清瀬市立清瀬中学校 第1学年

	学力調査から見えた課題(調査のない教科は授業における課題)	授業改善のための具体策	成果と課題(年度末)
国語	・全体的な値としては市町村・全国の平均値を上回る結果となったが、書く能力には課題が見られた。解答形式についても選択、短答に比べて記述の正答率は低い。書くことについて苦手意識をもつ生徒が多いことは授業の様子からも窺える。主語と述語を適切に対応させて書いたり、一文を短くして分かりやすく書いたりする基礎的な力が不足しているため、そこを補う必要がある。	・単元ごとに2000字の意見文を取り入れ、書く作業に慣れさせる。意見文の評価は観点別にできているかどうかのチェックを入れ、本人にフィードバックすることで生徒が自分の課題や成長を客観的に把握できるようにする。また読解の指導と関連づけて、読み取った内容を自分の言葉で再構成する活動を授業内で取り入れ、読む力とともに書く力の向上に努める。	
数学	・「数量や図形などについての知識・理解」の観点で平均を若干下回っていた。一度学んだ内容でも、時間が経過したり単元が変わったりすると忘れてしまう。 ・平均は上回っているが数学的な見方・考え方の正答率が低い。	①丁寧な授業、分かりやすい授業を行うことを心がけ、さらに授業の中で、振り返りの時間を設けて復習させるなどの工夫を行う。 ②得た知識を用いて、生徒自らが数学的に説明する機会を増やし、数学的な見方や考え方を育成する。	
社会	・板書を写す、資料問題を解く、色塗り作業をする、などの作業については、必要とする時間に個人差があるものの、どの生徒も前向きに取り組むことができている。授業中の発問に対しても意欲的に答えることができる。しかし、資料から読み取れることを書く、自分の考えを書く、など文章記述の作業になるとなかなか解答を書き出せない生徒もいる。	①単元ごとに、ノート+資料や練習問題をのせたプリントをセットで授業を進めることを基本とし、普段の授業から資料に触れる機会を増やし、グラフや地図などの資料活用能力を高める。 ②単元ごとに3分間ミニテスト、ワークのポイント整理ページの小テストなどを行い、学習内容の定着をはかる。 ③大型テレビを利用し、視覚的に理解しやすく、また興味をひきやすい授業作りを行う。	
理科	・理科に関する興味はとて高く、自然や物体に関する事象について、科学的に考察して説明する問題でも、意見が多く発言され、理解を深めることを共有できている。また、実験や実習なども、楽しそうに行っている。さらに、市の学力調査においても、基礎となる算数の計算能力は平均以上であり、物理や化学分野などの計算問題についても、十分に対応できる能力を身に着けることは可能と思われる。しかし、学力が著しく低い生徒も若干名おり、その生徒たちへの支援は継続的に行っていく必要がある。	①興味関心を引く教材や実験器具の使用を継続的にを行い、生徒の興味関心を引き、自ら進んで考える環境づくりを行う。 ②小学校の算数の既習事項の復習からはじめ、計算練習を繰り返すを行い、計算問題を苦手とする生徒を減らすよう努める。 ③教えあい活動や話し合い活動などを取り入れ、科学的な思考を育成する場面を多く取り入れる。また、生徒同士の教えあいなどにより、情報の共有や下位生徒の支援を自然に行える授業環境をつくる。	
音楽	・前向きに取り組もうとする生徒が多い。合唱への意欲も高い生徒が多い。器楽は個人差が大きい。原因の一つは階名で楽譜を読む能力と音符の長さの理解の差であると考えられる。	①授業開始時に、本時の内容、目標を板書きし、全体で確認してから始める。 ②スモールステップ ③グループワーク、パート練習など相互協力を取り入れる。 ④パートリーダーを中心とした練習。⑤様々な楽器を体験させる。	
美術	・表現したいイメージを言語化し整理して表現に活かすことが苦手な生徒がいる。・内面に眠る自己のエネルギーに気づかず、表現に活かしていない生徒が多い。	・言語化→造形表現というプロセスを、簡単なものからはじめ、徐々に表現の幅を増やさせていく。	
保健体育	・授業内容の充実を図るために、まず授業規律をしっかり守らせることが大切である。規律ある中で、個人の目標を明確にさせ活動させていく。繰り返し、話しをし、考えさせる時間をつくっていく。	・伝えるだけでなく、生徒自ら考えていけるように促す。グループ活動や学習カード等で振り返りをしながらどう取り組むかを考えさせ、互いに意見を伝えあいながら進めていく。	
技術・家庭	<家庭>ほとんどの生徒が真面目に取り組んでいるものの、実技の進度に差が見られる。 <技術>意欲的に取り組んでいる生徒が多く、モノづくりへの関心も高い。丁寧に作る生徒が多いが、これまでの生活で工具に慣れておらず、ケガの心配が大きい。	<家庭>個別の声かけ、指導を行う。 <技術>工具の安全な取り扱い方を十分に時間をとって説明し、机間支援で細かく生徒の様子を見る。	
外国語(英語)	・英語に興味をもち、学習意欲や理解力がある生徒と、学習意欲が低く基本的な語彙力や理解力が不足している生徒との学力差が大きい。 ・基本的な語彙力や理解力が不足している原因としては「『文字と音の関連性』と『英語の語順』を理解できないこと」と「『家庭学習』が行えていないこと」が考えられる。	①毎時帯活動に語彙練習と4時に1回の単語テストを実施し、単語の反復練習を習慣づける。 ②文字と音の関連性を習得できるように、単語、節、文などの音読活動を丁寧に行う。 ③ペアやグループ活動で進出文法や基本的表現の練習を繰り返すを行い、英語の語順を身につける。 ④宿題や課題のチェックをまめに行う。	

平成29年度授業改善推進プラン

清瀬市立清瀬中学校第2学年

	学力調査から見えた課題(調査のない教科は授業における課題)	授業改善のための具体策	成果と課題(年度末)
国語	・言語事項に関しては、授業時前後の小テストなど継続的な取り組みの効果が現れた。半面、文章から読み取る力と情報を取り出す力の不足が著しく目立つ。読解能力自体は都平均と変わらないが、必要な情報を文章やデータから抜き出す力が足りない。また情報の整合性を求める力も十分身につけているとは判断できない。	・多岐のジャンルに渡る文章を、読書として体験することで、現在不足している読み取る力や情報を取り出す力はかなりの伸長が期待される。さらに、小テストに読解力を問う型式を取り入れ、更なる向上を図りたい。情報収集力の深化や文章とデータからの読み取りについては、課題作文を通して学習の工夫に取り組みたい。	
数学	・基礎的計算力は昨年度に引き続き全体的に高い。課題であった資料の見方も向上している。しかし、文章を読み取る力が低く、問題で何を聞かれているか、どう答えるか、という部分で迷いがある。知識はあっても、問題で聞かれているものを活用しきれていないことが現状である。	・授業の冒頭で基礎計算の小テストや数学の用語の意味や知識の確認を継続的に取り組む。また、方程式や関数の利用など、文章題の演習に多く時間をかけ、読解力を向上させたいと考える。	
社会	・思考判断表現の観点は都平均よりも上回っていたが、知識理解や技能は下回っていた。基礎的な知識・技能が定着していないことが課題である。以前学習した内容を復習する活動を設ける必要がある。	・授業の冒頭で前時の授業内容を振り返る小テストを継続して取り組む。単元が終わったときに、内容を復習するまとめの学習を行う。また、定期考査を分析し、正答率が低い単元は繰り返し学習する。	
理科	・都の学力調査から、技能の観点については都の平均以上であったが、その他の項目については、3～5ポイントほど低く、特に知識・理解については、最も低い観点であった。このため、既習事項である科学的な知識を活用し、出題された事象を正確に理解することなどが困難であり、その事象について科学的に考察するところまでたどり着けない生徒が多く存在していると思われる。また、授業についても、理解ができない生徒の意見をひろい、生徒の実態に合わせた授業展開を行うことが必要であると考えられる。	①興味関心を引く教材や実験器具の使用を継続的にを行い、生徒の興味関心を引き、自ら進んで考える環境づくりを行う。 ②長期休業等を利用し、定期的な補習教室を行い、通常の授業で理解が困難であった生徒の学力を確保するよう努める。 ③日常生活に関係することなど、身近な発問を行い、授業内容を理解することが苦手な生徒に配慮した発問を行う。	
音楽	・前向きに取り組もうとする生徒が多い。合唱への意欲も高い生徒が多い。器楽は個人差が大きい。ギター練習は意欲的に取り組んでいる。鑑賞は女子と男子の取り組みに差がある。	①授業開始時に、本時の内容、目標を板書し、全体で確認してから始める。 ②スモールステップ ③グループワーク、パート練習など相互協力を取り入れる。 ④パートリーダーを中心とした練習をする。 ⑤実際の楽器の音を聞かせるようにする。	
美術	・表現したいイメージを広げるための努力を日常的に行えない生徒が多く見受けられる。	・発想の源になるもの(書籍やメディア、日常の風景など)をできるだけ授業の中で紹介し、表現活動にかけるようにする。	
保健体育	・授業への取り組む姿勢は、大変意欲がありどの生徒も積極的に活動できている。クラスにより、40人クラスがあり、安全面での心配はあるが、生徒にも意識させながら自ら考え、活動できるようにしている。 ・思考・判断の評価に差があるため、具体的にどう活動していえばよいか伝え、考えさせていく。	①授業に対する意欲ある姿勢を保ちながら、更なる向上を目指していく。そのために、一人一人に明確な目標をもたせ活動させる。安全面については特に注意させながら、話を聞くだけでなく、生徒自身に考えさせる時間を設ける。 ②授業の中で、グループ活動を増やし、話し合いや互いを評価し合いながら進めていく機会をつくっていく。	
技術・家庭	<家庭>ほとんどの生徒が真剣に取り組んでいるが、クラスによっては私語が多いときがあったり集中力が続かないことがある。 <技術>おおむねよく取り組んでいるが、40名のクラスなので技術室が狭く、工具を使う際に若干危険が伴う。また、動線の確保が課題である。	<家庭>全体で注意するよう個人の意識を高めるようにする。問題のある生徒には個別の声かけをする。 <技術>技術室のレイアウトをより工夫し、工具を置く場所や片付けのタイミングなど、ある場所に生徒が殺到しないような工夫を行う。	
外国語(英語)	・知識や理解の能力はあるが、それを使った表現力(特に話すことや書くこと)に課題が見られる。 ・上位層と下位層の習熟度の差が激しい。 ・英語に対しての苦手意識からか、関心・意欲の低い生徒が多い。	①文法を、基礎的事項に重点を置きながら指導する。文構造については、ドリル学習時に強調して指導したり、文法を踏まえた表現活動に力を入れることで、定着を図っていく。 ②語彙力のアップを図ったり、音読を繰り返させたり、暗唱させたりして表現のインプットを図る。また、多くの英文に触れさせたり、精読も行っていく。	

平成29年度授業改善推進プラン

清瀬市立清瀬中学校第3学年

	学力調査から見えた課題(調査のない教科は授業における課題)	授業改善のための具体策	成果と課題(年度末)
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・話す能力に比べ聞きとる能力が低い数値で、読む能力もこれに比例して低い数値を示している。自らの意見をまとめる点において語彙力の不足が目立つ。漢字や語句の意味は理解できても、表現する時点で言葉の選択、識別が困難になると思われる。 ・文章から事実と意見を識別し、自らの考えや意見を記述する能力が不足している。文学的文章での登場人物の心情変化などの読み取りは充分に対応する能力があるが、説明的文章の要旨を捉える力はない。 	<ul style="list-style-type: none"> ①語彙を増やすために学力向上テストの内容に、語句の意味や類義語、対義語など言語知識を問う設問を多く入れて実施する。 ②文章の読解能力を維持発展させるため、板書以外に口述筆記の授業展開を意図的に増加する。また、説明的文章の読解の際、段落要旨を短作文で記述する展開を多用する。 ③国語に関する興味関心を高める教材や読書意欲を喚起する授業の工夫を行う。 	
数学	<p>全国学力調査で知識に課題があることがわかった。定期考査では知識の観点ではほとんどの生徒が高得点をとれているので、学習内容が定着されていないと推測される。また文章問題を苦手とする生徒が多く、読まずに諦めてしまう生徒もいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の最初に前回の授業内容の復習を行い、復習することの大切さを教え、家庭で復習をするように促す。また1,2年生の復習をする時間も取り、定期考査で1,2年の範囲を出題していき積み重ね学習をさせ、定着させていく。 	
社会	<p>定期考査では知識・理解の正答率は高くなっている。しかし思考・判断・表現の問題は低い。課題に対して、自分なりの考えを記述することが苦手な生徒が多いことがわかる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では習得した知識を活用して、思考させる問題解決型の学習を増やしていく。またグループ学習や討論学習を実施し、他の人の考えを踏まえて、自分の考えを深めさせるような活動をしていく。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・知識理解の観点において、重要語句の説明文から語句を答えることはできるが、逆にその語句を自らの力で説明することはできないという傾向が見られる。 ・濃度の計算など、定量的に扱うことを苦手としている生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ①授業のなかで、ペアやグループで語句の意味を互いに答え、確認し合う時間をつくる。 ②計算問題や化学反応など、定量的に扱う事象については、ICTやマグネット等を活用し、視覚的に理解しやすいようにする。計算練習を取り入れるだけでなく、なぜそのような計算で答えが導き出せるのかを考える授業を展開する。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・前向きに取り組もうとする生徒とそうでない生徒の差がある。合唱への意欲は高い生徒が多い。器楽は個人差が大きい。鑑賞への取り組みも概ね積極的にできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①授業開始時に、本時の内容、目標を板書し、全体で確認してから始める。 ②スモールステップ ③グループワーク、パート練習など相互協力を取り入れる。 ④パートリーダーを中心とした練習をする。 	
美術	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のアイデアだけで発想を広げることが難しい生徒が少なくないようである。 	<ul style="list-style-type: none"> 発想力を培うために、優れた作品や生徒同士お互いの作品を鑑賞して、様々な表現を知る授業を行う。 	
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組みは、意欲があり、積極的に取り組める生徒がほとんどで(9割)ある。 ・全体で、思考・判断の評価に差があり、生徒の活動にねらいや取り組む内容の具体的な理解が必要と考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒の意欲的な活動を維持させながら、伝えるだけでなく、自ら考えて活動できるように促す。中学校生活最後の時間を充実させたい。 ②学習カードを授業で活用し、内容を十分に考え、まとめられるようにする。そのための説明の時間は取りながら、自身で考えていけるようにしたい。グループでの活動の中でも話し合いで気づきあえる時間をつくる。 	
技術・家庭	<p><家庭>実技に関してはほとんどの生徒が真面目に取り組んでいるが、教員集中が続かない生徒もいる。ノートの記入が完璧でない生徒がいる。</p> <p><技術>地道に取り組んでいる生徒が多い。授業の前半で説明を実物投影機などで行っているが、話を聞けず自己流で行ってしまい、失敗する生徒もいる。</p>	<p><家庭>個別の声かけをしてやる気を引き出す。ノートは机間指導をしてチェックする。</p> <p><技術>実物投影機での説明時に、生徒に尋ねながらクラス全体で作業の流れを見通させていく。</p>	
外国語(英語)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業へ真面目に取り組む生徒が多い。提出物も概ね良好である。普段の家庭学習に課題がある。 ・1,2年の基礎的な内容(単語や文法)が、定着できていない生徒がいる。 ・英語を話したり、書いたりすることに苦手意識をもつ生徒が多く見られる。 ・長文を読むことに抵抗感や苦手意識をもつ生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ①目標やねらいを明確にし、各自が「何をすべきか」を考えて学習へ取り組むよう支援する。できたことへ適切に評価し、達成感を味わえるよう工夫する。 ②1,2年の復讐を週1で授業に取り入れる。毎時間に基本文型のドリル練習をし、学期毎には単語の復習テストを行う。 ③「書く」「話す」活動を行うために、ALTの活用や毎時間の自己表現活動を工夫し、取り組ませる。 ④様々な読み物に触れさせ、「読む」ことに慣れさせる。 	